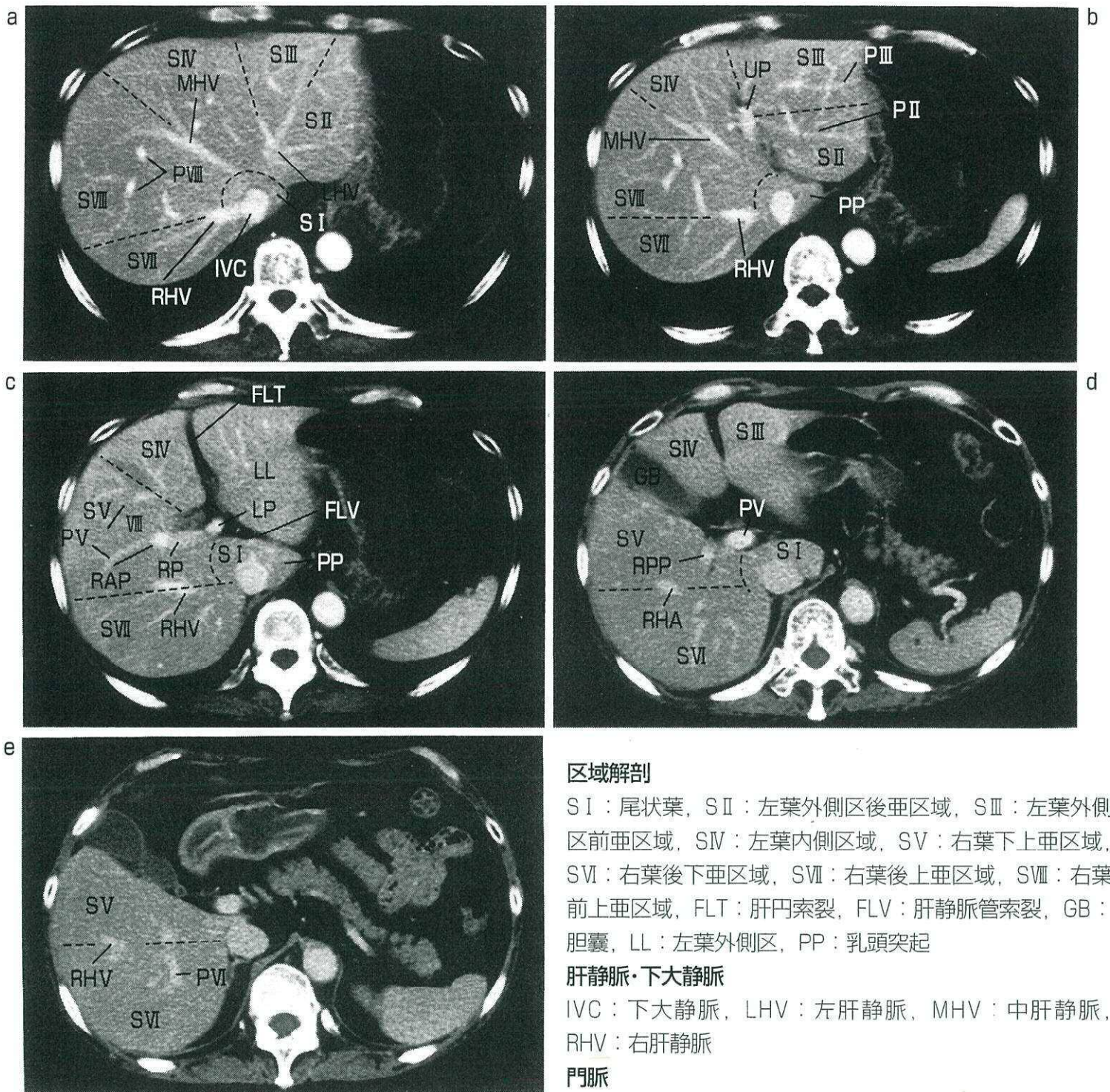


図2 正常肝の造影 CT 像



**区域解剖**

SI：尾状葉，SII：左葉外側区後亜区域，SIII：左葉外側区前亜区域，SV：左葉内側区域，SV：右葉下上亜区域，SVI：右葉後下亜区域，SVII：右葉後上亜区域，SVIII：右葉前上亜区域，FLT：肝門索裂，FLV：肝静脈管索裂，GB：胆嚢，LL：左葉外側区，PP：乳頭突起

**肝静脈・下大静脈**

IVC：下大静脈，LHV：左肝静脈，MHV：中肝静脈，RHV：右肝静脈

**門脈**

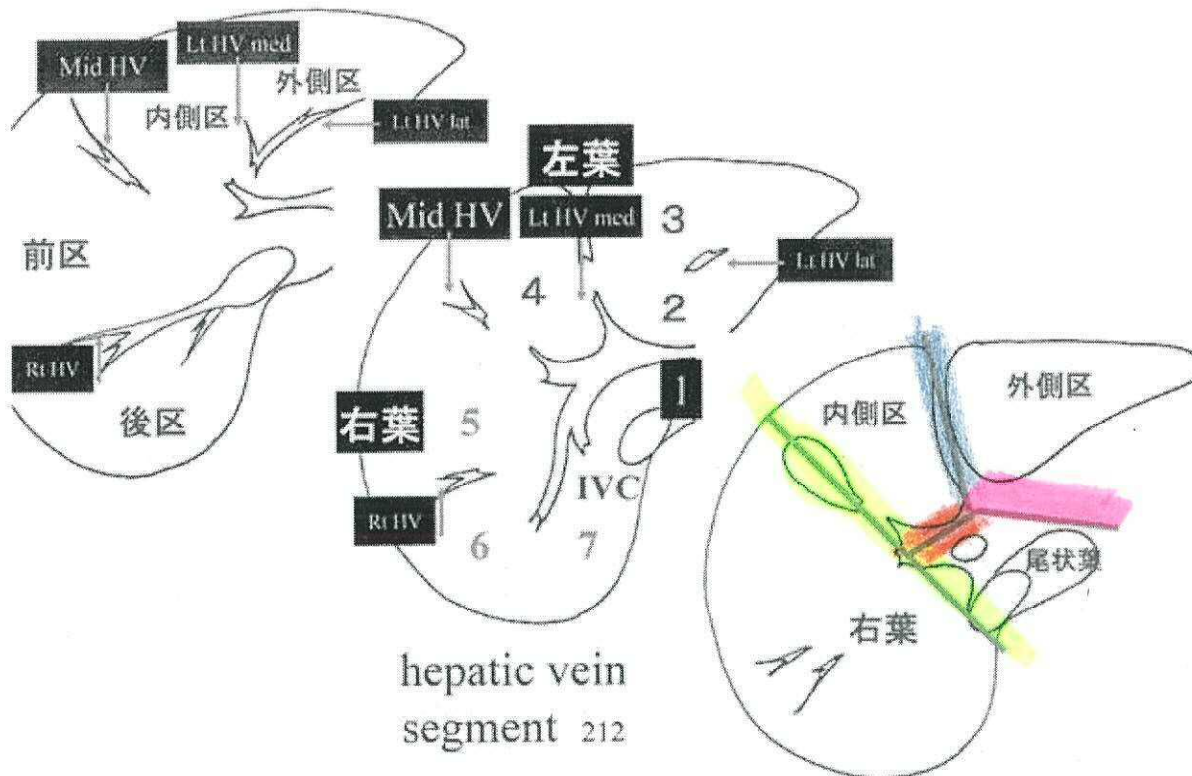
PII：門脈左葉外側後亜区域枝，PIII：門脈左葉外側前亜区域枝，PV：右葉前上亜区域枝，PVI：右葉後下亜区域枝，PVII：門脈右葉前上亜区域枝，LP：門脈左枝，PV：門脈本幹，RAP：門脈右前枝，RP：門脈右枝，RPP：門脈右後枝，UP：門脈左枝臍部。

静脈管索裂があり，左葉外側区と接している。なお尾状葉と右葉の境界となる解剖学的構造はなく，通常の CT では両者の境界を特定することはできない。

**●右葉**

肝静脈と右肝静脈の間の前区，右肝静脈より背側の後区に分けられる。Couinaud 分類ではさらに門脈右枝が前後の分枝に分かれるレベルで上下に分け，前下区を SV，後下区を SVI，後上区を SVII，前上区を SVIII





### H型裂溝でまず肝臓を分割

解剖1・・・肝の解剖は表面の裂溝および内部の血管系から成される。肝の前上面は無構造であるが、下背面(内臓面)にはつぎの構造を認める。

- ① 肝門：左葉内側区S4と尾状葉S1の間隙で、門脈、肝動脈、胆管の出入り口である。
- ② 肝円索裂FLT：肝円索(胎生期の臍静脈)およびこの頭側に張る肝鎌状間膜および門脈左主枝を擁し、外側区S2 S3と内側区S4を境する。
- ③ 静脈索裂FLV：胎生期の静脈管の走っていた間隙で尾状葉S1と外側背側(後)区S2の境界。
- ④ 下大静脈溝と胆嚢窩(床)：この2つを結ぶ線をCANTLIE線と呼び、外科的な左葉と右葉の境界。

解剖2・・・門脈portal vein と肝静脈 hepatic vein

肝の血管系の基本は、各(亜)区域の中央を門脈が、区域の間を肝静脈が走行する。